

景況調査

報告書 NO. 26

平成17年 1月～3月 実績
平成17年 4月～6月 見通し



蒲郡商工会議所
中小企業相談所

平成16年度第4四半期(H17.1~3月)景況調査

1. 調査時点 平成17年4月

2. 調査対象
 (1) 対象地区 蒲郡市内
 (2) 対象(回答)企業 143[136企業、7団体 = 三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法 聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

| 業種 | 製造業 | 建設業 | 卸売業 | 小売業 | サービス業 | 運輸通信業 | 全業種 |
|----|--------|--------|--------|-----|--------|-------|---------|
| 合計 | 57 (3) | 11 (2) | 24 (1) | 29 | 13 (1) | 9 | 143 (7) |

()は団体

5. 概況

全業種総合判断DI値(当期実績)は、**前年同期比**で見ると 31.5、前期実績(10~12月・29.2)と比較すると2.3ポイントの下降、悪化の傾向が見られ、**前期比**で見ると 30.1、前期実績(10~12月・18.4)と比較すると11.7ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。また、**売上DI値**についても、前期比で見ると 30.1、前期実績(10~12月・4.1)と比較すると26.0ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。**収益DI値**は 31.5、前期実績(10~12月・25.8)と比較すると5.7ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。**総合判断来期(H17.4~6月)見通し**については、18.2、前期実績(10~12月・24.5)と比較すると6.3ポイントの上昇、改善の傾向が見られる。

「**製造業**」のうち**食料品**は、年末の需要期を過ぎ、原材料高や販売先からの値下げ要請などによる利幅圧迫で深刻な状況である。**織物**は、ジャカードカーテン、ドビーカーテンともに、仕事量は少なく、また白生地織物も広幅・並幅を問わず、仕事量は少なく稼働率も80%程度である。先染織物についても、ほとんど仕事がなく、白生地を織っている。今後、ジャカードカーテンについてはさらに落ち込み、稼働率は40%程度になると思われる。**漁網・ロープ**のうち、繊維ロープは、海運・造船業界の活況を受け出荷量は増加している。漁網は、原料高に対する価格転嫁が進まず採算性は低下している。**鉄工**のうち、工作機械関係は、輸出・国内向けとも、堅調に生産・売上を維持している。特に中国向け設備投資が旺盛である。自動車関連は、工賃は厳しいが、高いレベルの生産・売上が続いている。**化学・プラスチック**のうち、化学工業は、原油高による原材料費の増加により、収益は上がらない状況である。プラスチック加工は、原材料に対し受注単価の値上げ交渉が伴わず、販売価格への転嫁もできない。

「**建設業**」は、公共工事は、年度末需要期に有り忙しいが、全体としては、競争激化により、採算的にも厳しい状況が続いている。

「**卸売業**」のうち**繊維卸**は、産業資材関連：原油高による原材料(特に化学繊維)値上げが更に進んでいる状況で売値になかなか転嫁できず苦慮している。寝装関連：ガーゼを中心とする盛夏物ケット関係も現段階での発注数量は大変厳しく、3月以降どれだけ取り込めるかが今後の課題である。インテリア関連：中国品の台頭で特に量販店向け商品は、継続品の追加や新柄の仕込み時期であるが、採用柄も少なく落ち込みも大きく苦戦している。衣料：この時期、年間を通して最も期待できるシーズンに入っているが、昨年同様主力商品を欠いた全く盛り上がりの少ないシーズンとなっている。

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

<全業種 各項目期別推移>

(DI 単位:%)

| | 前年同期比 平成16年1月~3月 に比べて | 前期比 平成16年10月~12月 に比べて | 来期見通し 平成17年4月~6月 の見通し | | 売上 | | 収益 | | 総合判断 | | |
|----------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | | | | 前年同期比 | 前期比 | 前年同期比 | 前期比 | 前年同期比 | 前期比 | 来期見通し |
| 生産額・売上額 | -25.9 | -30.1 | -10.5 | H16. 1~3月実績 | -18.9 | -36.5 | -27.1 | -35.3 | -19.5 | -28.9 | -13.8 |
| 製品・商品在庫 | -14.0 | -9.8 | -11.2 | H16. 4~6月実績 | -17.1 | -13.3 | -24.0 | -20.2 | -16.5 | -14.5 | -17.7 |
| 資金繰り | -18.2 | -18.2 | -14.7 | H16. 7~9月実績 | -13.5 | -9.4 | -31.1 | -28.4 | -23.0 | -26.4 | -6.1 |
| 採算(収益) | -38.4 | -31.5 | -18.2 | H16.10~12月実績 | -29.9 | -4.1 | -36.0 | -25.8 | -29.2 | -18.4 | -24.5 |
| 従業員数(含む臨時・パート) | -19.6 | -12.6 | 0.7 | H17. 1~3月実績 | -25.9 | -30.1 | -38.4 | -31.5 | -31.5 | -30.1 | -18.2 |
| 貴社の業況(総合判断) | -31.5 | -30.1 | -18.2 | | | | | | | | |

「**小売業**」は、相次ぐ大型店の開店により個店のみならず大型店にも売上に影響が出ている。TMO(中心市街地活性化)事業として、福寿稲荷ごりやく市が月1回開催され、よさこい踊りの会場にもなったため、中央通りに多くを集客し健闘した。**石油**は、灯油販売は冷え込みの強まりで昨年を上回る実績となった。ガソリンは高値更新が続く原油高騰により大幅な仕入値上げとなっており、末端転嫁が緊急な課題である。

「**サービス業**」のうち**旅館**関係は、新年会・歓送迎会の利用は多いものの、一般のツアー客は「愛・地球博」の出控え現象で利用少なく、3月後半になると一挙に予約が入りかなり期待できる。

「**運輸通信業**」のうち**旅客・貨物輸送・水運**は、海運関係：輸入原木は良いものの、木材製品は低調である。自動車輸出は、ほとんど無かった。陸運関係：一般貨物については、期末のため微増、小口貨物については横バイ、自動車部品は増加傾向にある。バス業界：中部国際空港開港により新規空港バス路線、見学ツアーを含む貸切バスは好調である。

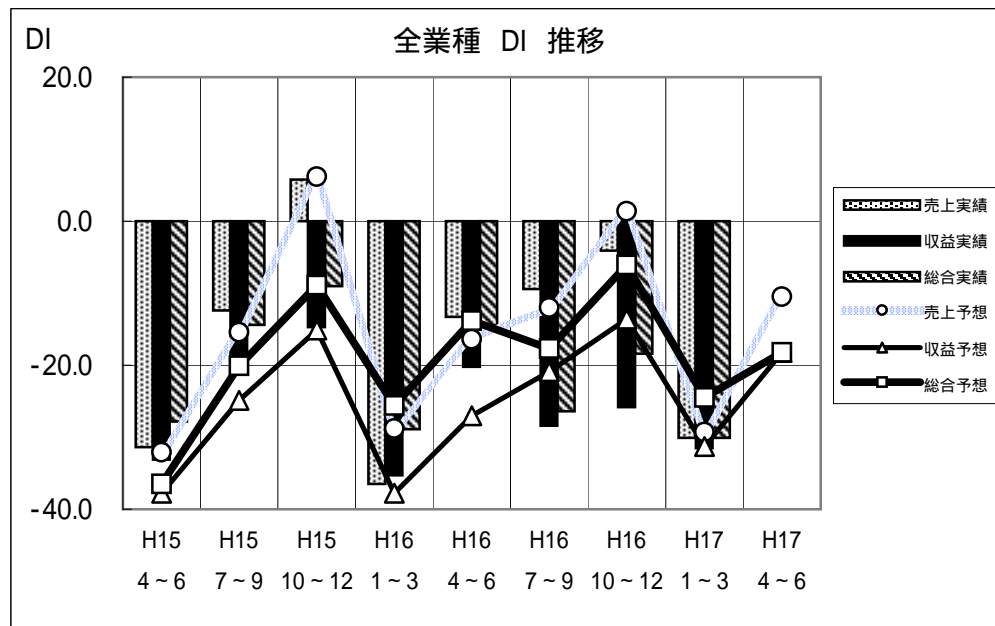
設備投資状況は、全般的には低調で、30事業所(41件)で設備投資が実施され、生産設備・車両運搬具・事業用建物が上位にランクした。来期は37事業所(52件)が設備投資を計画されている。

経営上の問題点では、売上の停滞・減少、利幅の縮小、競争激化が項目別・業種別で上位を占めていた。

当地区においても、依然としてデフレの長期化、雇用の停滞、個人消費の低調、設備投資の低調、原油価格高騰による原材料価格の上昇、住宅着工数の低調、中国・アジア製品の輸入拡大、円高等の影響により、1~3月期の業況判断DIは、鉄工以外は水面下にあり、悪化の方向にあるが、来期見通しについては改善傾向にある。蒲郡商工会議所は、今後3年間で取り組む重点事業として5つのアクションプランが承認され具体化に動き出した。

[総合判断]

| 業種 | 前年同期比 | 前期比 | 見通し | 業種 | 前年同期比 | 前期比 | 見通し |
|-------------|-------|-----|-----|--------------|-------|-----|-----|
| 全業種 | | | | 卸売業 | | | |
| | | | | (繊維卸) | | | |
| 製造業 | | | | 小売業 | | | |
| (食料品) | | | | (飲食) | | | |
| (織物) | | | | (石油等その他小売) | | | |
| (漁網・ロープ) | | | | サービス業 | | | |
| (鉄工) | | | | (旅館) | | | |
| (化学・プラスチック) | | | | 運輸通信業 | | | |
| 建設業 | | | | (旅客・貨物輸送・水運) | | | |



< 業況判断DIの推移 >

| | H15.4~6月 | 7~9月 | 10~12月 | H16.1~3月 | 4~6月 | 7~9月 | 10~12月 | H17.1~3月 | 4~6月見通し |
|----|----------|-------|--------|----------|-------|-------|--------|----------|---------|
| 売上 | -31.4 | -12.4 | 5.8 | -36.5 | -13.3 | -9.4 | -4.1 | -30.1 | -10.5 |
| 収益 | -33.1 | -20.0 | -14.7 | -35.3 | -20.2 | -28.4 | -25.8 | -31.5 | -18.2 |
| 総合 | -27.8 | -14.4 | -9.0 | -28.9 | -14.5 | -26.4 | -18.4 | -30.1 | -18.2 |

DI (ディフュージョン・インデックス 業況判断指数) について

DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%) = 増加・良好などの割合 - 減少・悪化などの割合

(注) 生産額・売上額 : DI = (増加) - (減少)

製品・商品在庫 : DI = (減少) - (増加)

資金繰り : DI = (好転) - (悪化)

採算(収益) : DI = (上昇) - (下降)

従業員数 : DI = (増加) - (減少)

業況(総合判断) : DI = (好転) - (悪化)

DIが0より大 景気上向き

DIが0 景気横ばい

DIが0より小 景気下向き

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上



DI 6~49%



DI 5~-5%



DI -6~-49%



DI -50%以下



6. 業種別報告

製造業

売上DI値は 10.5、前期実績10～12月期（5.3）に比して15.8ポイントの下降。収益DI値は 26.4、前期実績10～12月期（15.8）に比して10.6ポイントの下降、総合判断DI値は 22.8、前期実績10～12月期（8.7）に比して14.1ポイントの下降、いずれも悪化傾向であった。見通しとしては、売上・収益・総合とも改善傾向である。

製造業

(DI 単位:%)

| | 前年同期比 平成16年1月～3月 に比べて | 前期比 平成16年10月～12月 に比べて | 来期見通し 平成17年4月～6月 の見通し |
|----------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 生産額・売上額 | -8.8 | -10.5 | -1.8 |
| 製品・商品在庫 | -10.5 | -5.3 | -8.8 |
| 資金繰り | -17.6 | -14.0 | -12.3 |
| 採算(収益) | -31.6 | -26.4 | -12.2 |
| 従業員数(含む臨時・パート) | -10.6 | -3.5 | 0.0 |
| 貴社の業況(総合判断) | -19.3 | -22.8 | -12.3 |

[食料品]

売上は前年同期比DI値 12.5と減少。年末の需要期を過ぎ、前期比ではDI値は 50と減少。万博関連の観光客向けの土産品として受注があり、売上増加に転じた企業もみられる。収益は前年同期比DI値 25.0、前期比ではDI値 37.5と悪化傾向。販売先からの値下げ要請などによる利幅圧迫で、深刻な状況にある。地元水産物を主原料とする食品製造業では、依然として水揚量の減少による原価高に苦しんでいるが、輸入原料についてもインド洋津波の影響により価格が高騰し、採算面が悪化している企業もある。総合判断は前年同期比DI値 25.0、前期比ではDI値 50.0と悪化傾向であった。

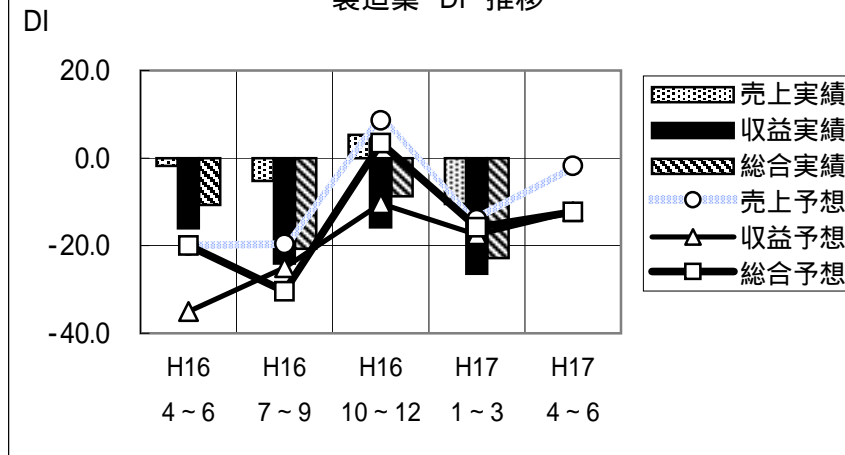
向こう3ヶ月の見通しは、売上DI値は12.5、収益DI値は12.5、総合判断DI値は25.0と総じて改善傾向である。(食品部会)

(食料品)

(DI 単位:%)

| | 前年同期比 平成16年1月～3月 に比べて | 前期比 平成16年10月～12月 に比べて | 来期見通し 平成17年4月～6月 の見通し |
|----------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 生産額・売上額 | -12.5 | -50.0 | 12.5 |
| 製品・商品在庫 | 0.0 | 12.5 | 0.0 |
| 資金繰り | -37.5 | -25.0 | -25.0 |
| 採算(収益) | -25.0 | -37.5 | 12.5 |
| 従業員数(含む臨時・パート) | -12.5 | -12.5 | 0.0 |
| 貴社の業況(総合判断) | -25.0 | -50.0 | 25.0 |

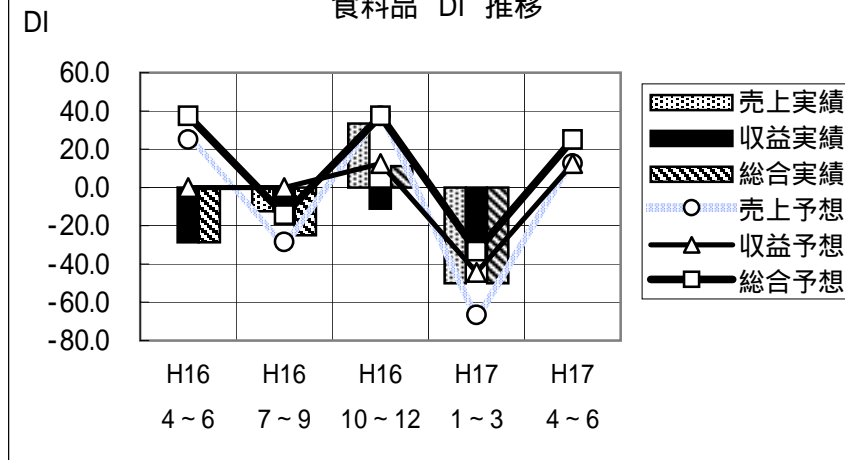
製造業 DI 推移



<業況判断DIの推移>

| | 4～6月 | 7～9月 | 10～12月 | H17.1～3月 | 4～6月見通し |
|----|-------|-------|--------|----------|---------|
| 売上 | -1.8 | -5.2 | 5.3 | -10.5 | -1.8 |
| 収益 | -16.0 | -24.1 | -15.8 | -26.4 | -12.2 |
| 総合 | -10.7 | -20.7 | -8.7 | -22.8 | -12.3 |

食料品 DI 推移



<業況判断DIの推移>

| | 4～6月 | 7～9月 | 10～12月 | H17.1～3月 | 4～6月見通し |
|----|-------|-------|--------|----------|---------|
| 売上 | 0.0 | -12.5 | 33.4 | -50.0 | 12.5 |
| 収益 | -28.6 | -12.5 | -11.1 | -37.5 | 12.5 |
| 総合 | -28.6 | -25.0 | 11.1 | -50.0 | 25.0 |

【織物】

主力商品であるジャカードカーテンについては、一時期多少仕事が出たが、全体に仕事量は少なく、稼働率は60%前後で推移している。ここへきて仕事量は極端に減少している。ドビーカーテンについても、仕事量は少ない。白生地織物は、広幅・並幅を問わず仕事量は少なく稼働率は80%前後である。先染織物は、仕事が殆どなく、白生地を織っている状況である。しかし、何れも原材料費の上昇から採算面は非常に厳しい状況が続いており、期近発注による短納期化・少ロット化が進み稼働率は非常に悪くなっている。今後の見通し、ジャカードカーテンは、仕事量は大幅に減少するものと思われ稼働率は40%程度まで落ち込むものと思われる。ドビーカーテンについては、ジャカードほどの落込みは無いと思われるが、減少することは必至であり、厳しいことには変りはない。白生地織物は、仕事量の増加は見込みうすで、今期の横パイであれば上々と思われる。先染織物は、春夏物が主力であり仕事量の増加を期待しているが、夏物の仕事は殆ど出でらず現状と同じ状況が続くと思われる。採算面で非常に厳しい状況が続いている中で、原油高による影響で合繊糸や染色整理加工代が値上がり傾向となっており、工賃への圧迫が懸念されている。総体的に、長期に亘る業況不振の影響で資金繰りは非常に悪化しており、運転資金の新規借入れも難しい状況が続いている。(繊維部会)

(織物)

(DI 単位:%)

| | 前年同期比 平成16年1月～3月 に比べて | 前期比 平成16年10月～12月 に比べて | 来期見通し 平成17年4月～6月 の見通し |
|----------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 生産額・売上額 | -37.5 | -12.5 | -12.5 |
| 製品・商品在庫 | -37.5 | -37.5 | -25.0 |
| 資金繰り | -37.5 | -25.0 | -12.5 |
| 採算(収益) | -50.0 | -12.5 | -37.5 |
| 従業員数(含む臨時・パート) | -62.5 | -12.5 | 0.0 |
| 貴社の業況(総合判断) | -37.5 | -12.5 | -12.5 |

【漁網・ロープ】

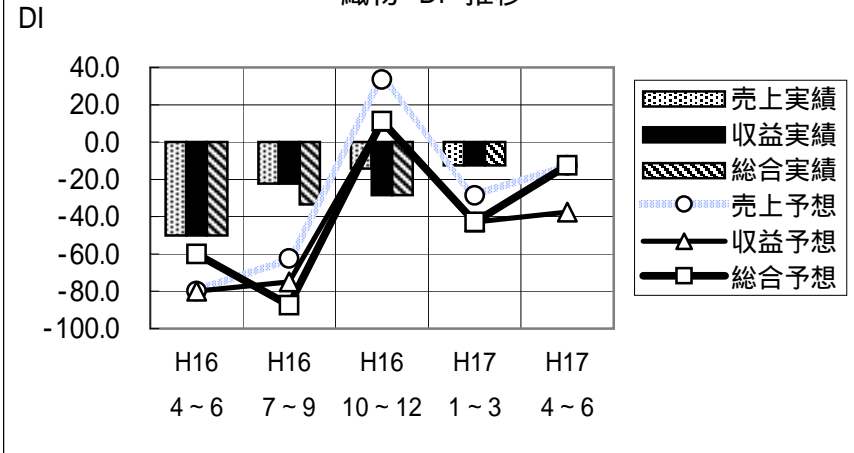
繊維ロープ：主たる需要先である漁業の水揚げは、昨年15年振りに前年より2.7%増となったほか、このところの海運・造船業界の活況を受け、ロープの出荷量は増加の兆しが出てきている。一方、輸入も昨年は1万トンの大台を超える勢いである。
 漁網：季節的要因もあり、受注は活発である。半面、原料高に対する価格転嫁が進まず、採算性は低下している。一部では、パートタイマーを中心に求人難の現象も見られる。
 (繊維ロープ部会)

(漁網・ロープ)

(DI 単位:%)

| | 前年同期比 平成16年1月～3月 に比べて | 前期比 平成16年10月～12月 に比べて | 来期見通し 平成17年4月～6月 の見通し |
|----------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 生産額・売上額 | 33.3 | 33.3 | 50.0 |
| 製品・商品在庫 | -33.3 | -33.3 | -33.3 |
| 資金繰り | 0.0 | -16.7 | -33.3 |
| 採算(収益) | -50.0 | -33.3 | 0.0 |
| 従業員数(含む臨時・パート) | -16.7 | 0.0 | 0.0 |
| 貴社の業況(総合判断) | 0.0 | -16.7 | -16.7 |

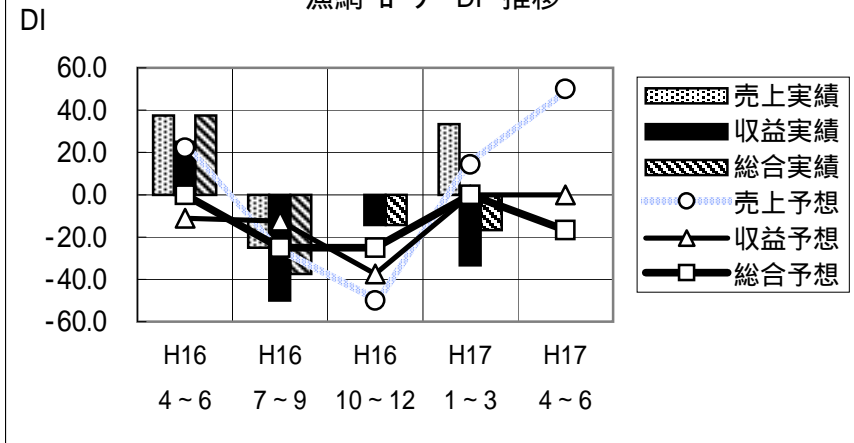
織物 DI 推移



<業況判断DIの推移>

| | 4~6月 | 7~9月 | 10~12月 | H17.1~3月 | 4~6月見通し |
|----|-------|-------|--------|----------|---------|
| 売上 | -50.0 | -22.3 | -14.3 | -12.5 | -12.5 |
| 収益 | -50.0 | -22.2 | -28.5 | -12.5 | -37.5 |
| 総合 | -50.0 | -33.4 | -28.5 | -12.5 | -12.5 |

漁網・ロープ DI 推移



<業況判断DIの推移>

| | 4~6月 | 7~9月 | 10~12月 | H17.1~3月 | 4~6月見通し |
|----|------|-------|--------|----------|---------|
| 売上 | 37.5 | -25.0 | 0.0 | 33.3 | 50.0 |
| 収益 | 25.0 | -50.0 | -14.3 | -33.3 | 0.0 |
| 総合 | 37.5 | -37.5 | -14.3 | -16.7 | -16.7 |

[鉄工]

<工作機械関係> 総じて堅調に生産、売上を維持しており、受注残も増えており能力がいっぱいの所もある。要因はアメリカ・中国などの輸出に支えられており、特に中国へは、自動車業界から工場進出のため生産設備など設備投資が旺盛であり、国内も自動車向けを中心に好調である。製品は1年後にしか手に入らず、中古工作機械の値も上がっていると言われている。

<自動車部品関係> 依然として完成車は堅調に生産を維持しており、部品加工メーカーも高いレベルの生産・売上が続いており、休日出勤・夜間の残業が日常化し、繁忙状態にある。尚、収益的にはコストアップにあり収益は上がらない。懸念材料としては、鋼材の高騰、ガソリンの高騰、為替の動向、メカから電子・電気化(部品点数の減少)、人手不足などがある。

向こう3ヶ月の見通しは

4月以降は、ゴールデンウィークのため稼働日数が減り、若干生産・売上を下げて行くと思われる。

(金属鉄工部会)

(鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

| | 前年同期比 平成16年1月～3月 に比べて | 前期比 平成16年10月～12月 に比べて | 来期見通し 平成17年4月～6月 の見通し |
|----------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 生産額・売上額 | 15.8 | 21.1 | -15.8 |
| 製品・商品在庫 | 0.0 | 10.6 | 0.0 |
| 資金繰り | -10.5 | 0.0 | 5.2 |
| 採算(収益) | 10.5 | 15.8 | 0.0 |
| 従業員数(含む臨時・パート) | 10.5 | 10.5 | 10.5 |
| 貴社の業況(総合判断) | 21.0 | 15.8 | -5.3 |

[化学・プラスチック]

化学工業：原油高による原材料高が続き、販売数量は伸びているが、収益が上がらない状況である。

プラスチック製造加工：原料樹脂が再三にわたり値上りし、高値止まりの状態となっている。しかも一部の品目については今年に入っても値上りが見られる。汎用樹脂については販売価格への転嫁も十分出来ない現状である。収益的に誠に厳しい。

向こう3ヶ月の見通しは

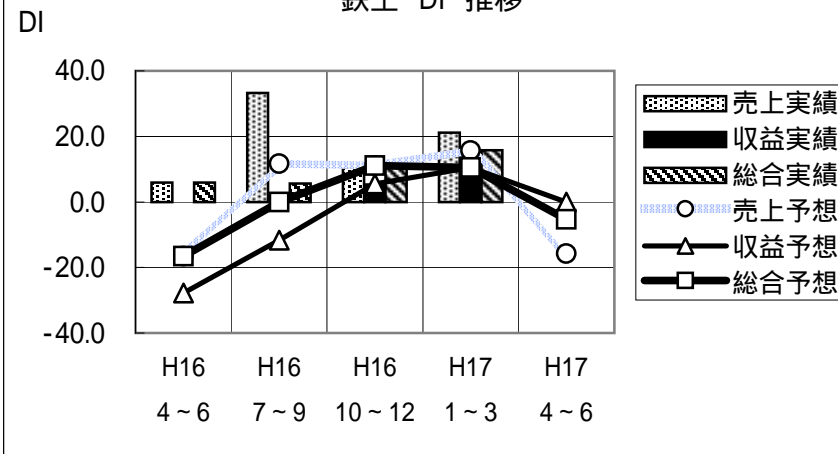
原料の値上げ高に製品価格が追いつかない現状であるが、値上げも一応落ち着きが見られるところから、従来値上りが出来なかった取引先へ粘り強く交渉し、収益回復を期待する。また歯材関係で、国内市場の伸びは期待できないので、今後も輸出に注力していくところもある。

(化学部会)

(化学・プラスチック) (DI 単位:%)

| | 前年同期比 平成16年1月～3月 に比べて | 前期比 平成16年10月～12月 に比べて | 来期見通し 平成17年4月～6月 の見通し |
|----------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 生産額・売上額 | 0.0 | -28.6 | 14.3 |
| 製品・商品在庫 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 資金繰り | 0.0 | -28.6 | -14.3 |
| 採算(収益) | -57.1 | -71.4 | 0.0 |
| 従業員数(含む臨時・パート) | 14.3 | 0.0 | 0.0 |
| 貴社の業況(総合判断) | -57.1 | -71.4 | -14.3 |

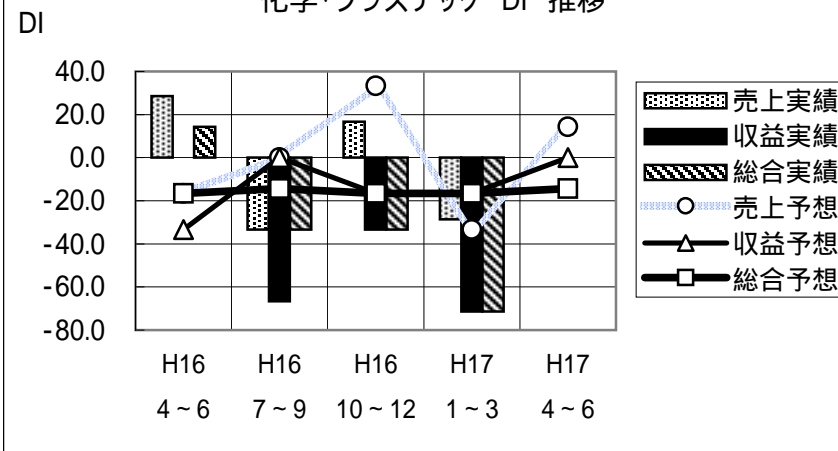
鉄工 DI 推移



<業況判断DIの推移>

| | 4~6月 | 7~9月 | 10~12月 | H17.1~3月 | 4~6月見通し |
|----|------|------|--------|----------|---------|
| 売上 | 5.9 | 33.3 | 10.5 | 21.1 | -15.8 |
| 収益 | 0.0 | 0.0 | 5.3 | 15.8 | 0.0 |
| 総合 | 5.9 | 5.6 | 10.6 | 15.8 | -5.3 |

化学・プラスチック DI 推移



<業況判断DIの推移>

| | 4~6月 | 7~9月 | 10~12月 | H17.1~3月 | 4~6月見通し |
|----|------|-------|--------|----------|---------|
| 売上 | 28.6 | -33.3 | 16.7 | -28.6 | 14.3 |
| 収益 | 0.0 | -66.7 | -33.3 | -71.4 | 0.0 |
| 総合 | 14.3 | -33.3 | -33.3 | -71.4 | -14.3 |

建設業

売上DI値は 18.2、前期実績10～12月期（ 20.0）に比して1.8ポイントの上昇、収益DI値は 27.3、前期実績10～12月期（ 50.0）に比して22.7ポイントの上昇、総合判断DI値は 9.1、前期実績10～12月期（ 30.0）に比して20.9ポイントの上昇、いずれも改善傾向である。見通しとしても、売上・収益・総合は改善傾向にある。

公共工事は、年度末需要期にあり、それなりに忙しい状況が見られる。また民間工事、住宅関連も建築需要が回復傾向にあり、底堅く推移している。しかしながら公共工事・民間工事ともに競争は相変わらず厳しく、採算面では利益確保が厳しい状況が続いている。

向こう3ヶ月の見通しは、

公共工事は、先行き不透明感が強く、前年割れ基調は続き、採算面では徐々に厳しくなっていくと思われる。全体的には、景況感が盛り上がらない状況が続き、横パイもしくは若干の改善傾向にある。

（建設部会）

建設業

(DI 単位:%)

| | 前年同期比 平成16年1月～3月 に比べて | 前期比 平成16年10月～12月 に比べて | 来期見通し 平成17年4月～6月 の見通し |
|----------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 生産額・売上額 | -27.3 | -18.2 | -36.4 |
| 製品・商品在庫 | -18.2 | -9.1 | -18.2 |
| 資金繰り | -9.1 | -18.2 | -9.1 |
| 採算(収益) | -45.4 | -27.3 | -27.3 |
| 従業員数(含む臨時・パート) | -45.5 | -36.4 | -36.4 |
| 貴社の業況(総合判断) | -27.3 | -9.1 | -18.2 |

卸売業

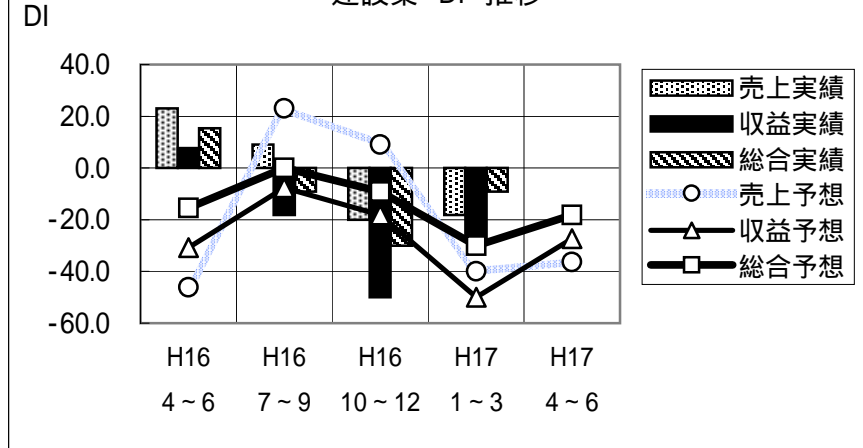
売上DI値は 62.5、前期実績10～12月期（ 9.1）に比して53.4ポイントの下降、収益DI値は 33.3、前期実績10～12月期（ 22.8）に比して10.5ポイントの下降、総合判断DI値は 54.1、前期実績10～12月期（ 9.1）に比して45.0ポイントの下降と、いずれも悪化傾向であった。見通しとしては、いずれも反動で改善傾向にある。

卸売業

(DI 単位:%)

| | 前年同期比 平成16年1月～3月 に比べて | 前期比 平成16年10月～12月 に比べて | 来期見通し 平成17年4月～6月 の見通し |
|----------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 生産額・売上額 | -54.2 | -62.5 | -12.5 |
| 製品・商品在庫 | -33.3 | -25.0 | -29.1 |
| 資金繰り | -12.5 | -16.7 | -8.4 |
| 採算(収益) | -41.7 | -33.3 | -16.7 |
| 従業員数(含む臨時・パート) | -29.2 | -20.8 | 12.5 |
| 貴社の業況(総合判断) | -54.1 | -54.1 | -12.5 |

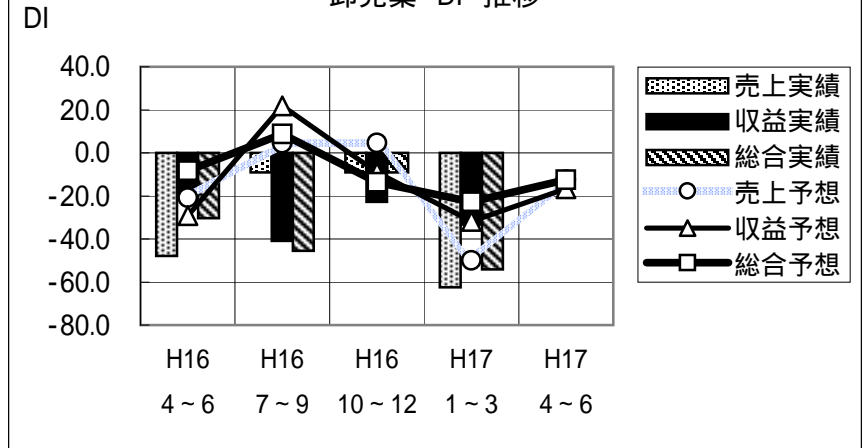
建設業 DI 推移



<業況判断DIの推移>

| | 4～6月 | 7～9月 | 10～12月 | H17.1～3月 | 4～6月見通し |
|----|------|-------|--------|----------|---------|
| 売上 | 23.1 | 9.1 | -20.0 | -18.2 | -36.4 |
| 収益 | 7.7 | -18.2 | -50.0 | -27.3 | -27.3 |
| 総合 | 15.4 | -9.1 | -30.0 | -9.1 | -18.2 |

卸売業 DI 推移



<業況判断DIの推移>

| | 4～6月 | 7～9月 | 10～12月 | H17.1～3月 | 4～6月見通し |
|----|-------|-------|--------|----------|---------|
| 売上 | -47.9 | -9.1 | -9.1 | -62.5 | -12.5 |
| 収益 | -21.8 | -40.9 | -22.8 | -33.3 | -16.7 |
| 総合 | -30.4 | -45.5 | -9.1 | -54.1 | -12.5 |

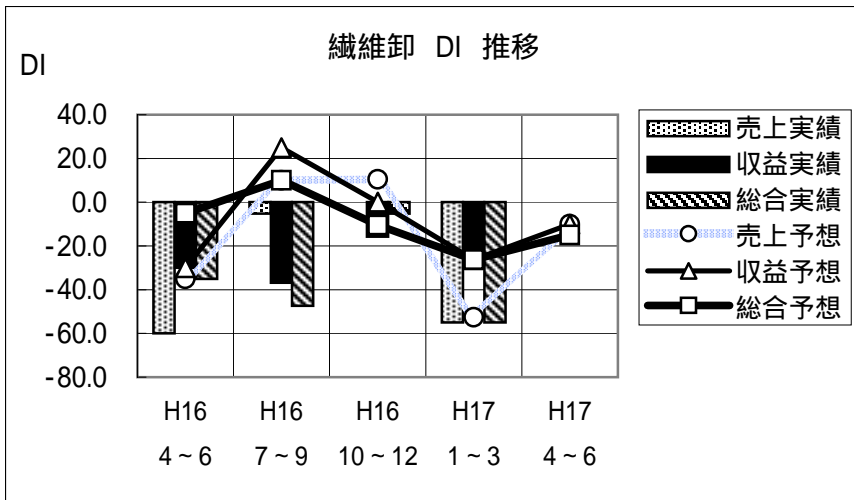
[繊維卸]

産業資材関連：神戸ケミカルシューズ業界は、ここ1年で15%から20%減といわれ、車関係は、堅調であるが値上げどころか値下げの話ばかり、帆布関係は、値段もあるが品質との絡みもあり（安物は輸入に変わっている）比較的安定している。ガムテープ関係については、在庫過多（輸入が増えた）のため、ここに来て生産量50%オフと言われている。寝装関連：昨年対比で1割程度下落しており、取扱い商品も益々機能的な傾向が強くなり、ロットは逆に小ロット化に向かっている。ガーゼを中心とした盛夏物ケット関係も、現段階での発注数量は大変厳しい状況である。3月以降どれだけ取り込めるかが今後の課題である。インテリア関連：年末から年度末のシーズンインを迎え後半に来ているが、例年とは違い今ひとつ盛り上がりには欠けている。量販店向け商品は、中国品の台頭で、継続品の追加や新柄の仕込み時期であるが、各社、採用柄も少なく、落ち込みも大きく苦戦している。量販店中心の産元も専門店向け（ブック帳販売）へのシフトを計っているが、コントラクトや物件の落ち込みも大きく、商権取りや物件の確保で採算面もかなり厳しくなっている。テーブルクロスも中国品に押され、国内生産分は多品種・少ロット化しており、この分野でも差別化の為、機能商品を付加した商品開発をしている。衣料関連：この時期、年間を通して最も期待できるシーズンに入っていると言える。しかし昨年と同様、主力商品を欠いた盛り上がりの少ないシーズンとなっている。正月明けから荷動きの悪さについては、一向に改善される気配も無く、3月を終わろうとしている。海外での生産シフトが、我々の予想をはるかに超えた所で進行しており、大きな時代のうねりの中に飲み込まれているようだ。（繊維部会）

(繊維卸)

(DI 単位:%)

| | 前年同期比 平成16年1月～3月 に比べて | 前期比 平成16年10月～12月 に比べて | 来期見通し 平成17年4月～6月 の見通し |
|----------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 生産額・売上額 | -55.0 | -55.0 | -10.0 |
| 製品・商品在庫 | -45.0 | -35.0 | -35.0 |
| 資金繰り | -10.0 | -15.0 | -5.0 |
| 採算(収益) | -40.0 | -30.0 | -10.0 |
| 従業員数(含む臨時・パート) | -20.0 | -15.0 | 10.0 |
| 貴社の業況(総合判断) | -55.0 | -55.0 | -15.0 |



<業況判断DIの推移>

| | 4~6月 | 7~9月 | 10~12月 | H17.1~3月 | 4~6月見通し |
|----|-------|-------|--------|----------|---------|
| 売上 | -60.0 | -5.2 | 0.0 | -55.0 | -10.0 |
| 収益 | -30.0 | -36.9 | -15.8 | -30.0 | -10.0 |
| 総合 | -35.0 | -47.3 | -5.2 | -55.0 | -15.0 |

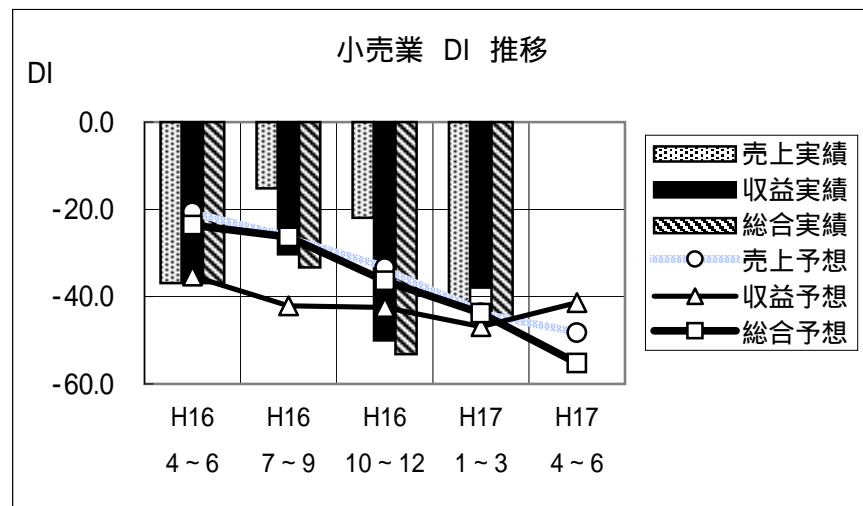
小売業

売上DI値は 41.4、前期実績10~12月期 (21.9) に比して19.5ポイントの下降。収益DI値は 37.9、前期実績10~12月期 (50.0) に比して12.1ポイントの上昇、総合判断DI値は 44.9、前期実績10~12月期 (53.2) に比して8.3ポイントの上昇と、収益・総合判断は改善傾向であった。見通しとしては、いずれも悪化傾向である。個店の売上が減少しており、相次ぐ大型店の出店とあいまって、個店のみならず大型店へも売上の影響が出ている。また、2月上旬の大手ホームセンター閉店により売上への影響が出ているところもある。大型店同士の競争が続く中で、個店の経営は大変厳しい状況であった。3月27日の蒲郡商店街(振)によるテント市「福寿稲荷ごりやく市」(蒲郡TMO 事業)は、よさこい踊りの会場にもなったため中央通りへ多く集客し大健闘した。向こう3ヶ月の見通し、景気回復と個人消費の伸びと、各個店の売上増を期待したい。一方で、4月下旬、大型商業施設のオープンが予定されており、個店そして大型店にとっても厳しい経営が予想される。(商業部会)

小売業

(DI 単位:%)

| | 前年同期比 平成16年1月～3月 に比べて | 前期比 平成16年10月～12月 に比べて | 来期見通し 平成17年4月～6月 の見通し |
|----------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 生産額・売上額 | -48.3 | -41.4 | -48.3 |
| 製品・商品在庫 | -13.8 | -10.3 | -6.9 |
| 資金繰り | -34.5 | -27.6 | -34.5 |
| 採算(収益) | -58.6 | -37.9 | -41.4 |
| 従業員数(含む臨時・パート) | -24.1 | -17.2 | 0.0 |
| 貴社の業況(総合判断) | -55.2 | -44.9 | -55.2 |



<業況判断DIの推移>

| | 4~6月 | 7~9月 | 10~12月 | H17.1~3月 | 4~6月見通し |
|----|-------|-------|--------|----------|---------|
| 売上 | -36.9 | -15.2 | -21.9 | -41.4 | -48.3 |
| 収益 | -36.8 | -30.3 | -50.0 | -37.9 | -41.4 |
| 総合 | -36.9 | -33.3 | -53.2 | -44.9 | -55.2 |

[飲食]

緩やかな下降傾向が止まらない。また、大型チェーン店の進出により個店は苦しい。会社関係の利用は低調のままで、根本的な解決策は見出せない。

向こう3ヶ月の見通し

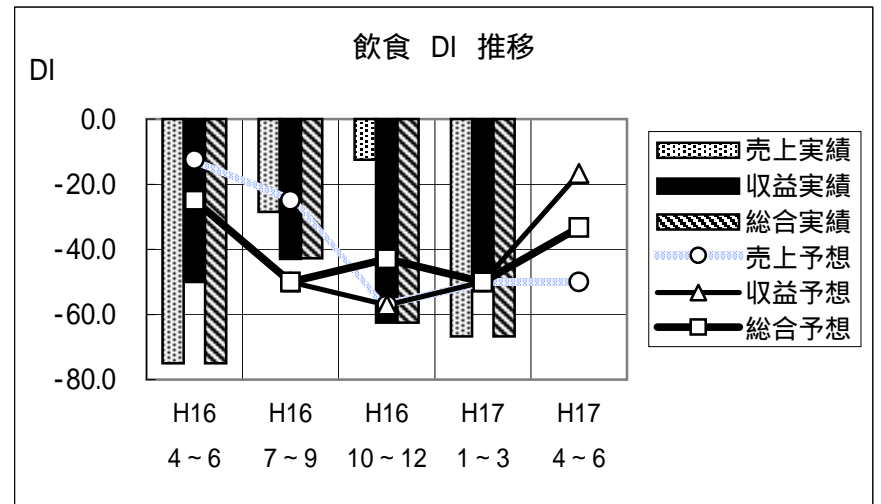
暖かくなり、行楽シーズンを迎える。潮干狩りなどの観光客増加に期待したいが、愛・地球博の効果も、飲食店にはあまり無いと思われる。

(蒲郡市飲食業環境衛生組合連合会)

(飲食)

(DI 単位:%)

| | 前年同期比 平成16年1月～3月 に比べて | 前期比 平成16年10月～12月 に比べて | 来期見通し 平成17年4月～6月 の見通し |
|----------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 生産額・売上額 | -66.7 | -66.7 | -50.0 |
| 製品・商品在庫 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 資金繰り | -66.7 | -50.0 | -50.0 |
| 採算(収益) | -50.0 | -50.0 | -16.7 |
| 従業員数(含む臨時・パート) | -16.7 | 0.0 | 16.7 |
| 貴社の業況(総合判断) | -66.7 | -66.7 | -33.3 |



<業況判断DIの推移>

| | 4~6月 | 7~9月 | 10~12月 | H17.1~3月 | 4~6月見通し |
|----|-------|-------|--------|----------|---------|
| 売上 | -75.0 | -28.5 | -12.5 | -66.7 | -50.0 |
| 収益 | -50.0 | -42.9 | -62.5 | -50.0 | -16.7 |
| 総合 | -75.0 | -42.8 | -62.5 | -66.7 | -33.3 |

[石油等その他小売]

今冬の灯油販売は、昨年未の冷え込みの強まりで昨年を上回る実績となった。一方ガソリン商戦は、高値更新が続く原油高騰により大幅な仕入れ値上げとなっており、末端転嫁が緊急の課題となった。特に販売業者は短期で末端値上げに動き、利益を確保しなければならない状況であった。

向こう3ヶ月の見通し

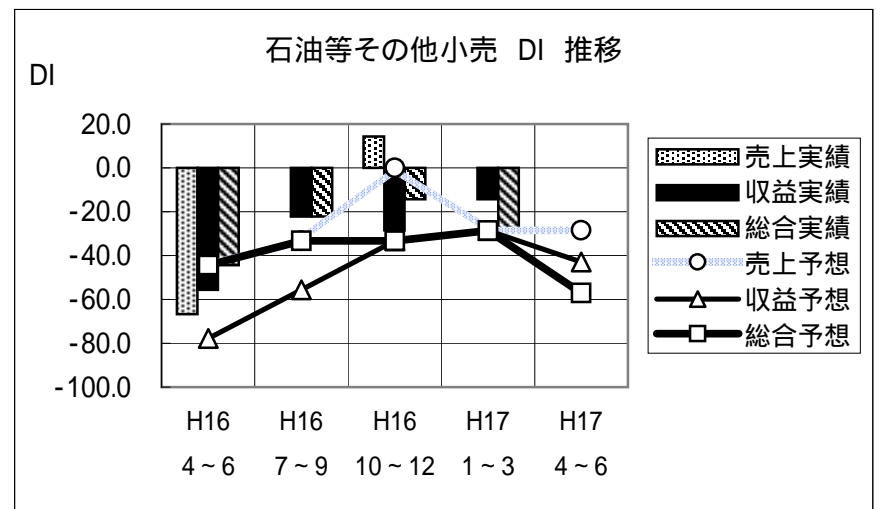
中東産ドバイ原油が直近では連日の上昇で45ドル以上に上昇しており、4月の値上げは必至であり、場合によっては5月以降も継続しないとも限らない状況である。原油高に加えて、需給タイト化などの厳しい市場環境が、4月以降も当分続く見通しが強く、昨年と同じ、あるいはそれ以上の厳しい環境を覚悟する必要がある、確実な価格転嫁が最重要課題である。

(エネルギー部会)

(石油等その他小売)

(DI 単位:%)

| | 前年同期比 平成16年1月～3月 に比べて | 前期比 平成16年10月～12月 に比べて | 来期見通し 平成17年4月～6月 の見通し |
|----------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 生産額・売上額 | 0.0 | 0.0 | -28.5 |
| 製品・商品在庫 | -14.3 | -14.3 | -14.3 |
| 資金繰り | -14.3 | -14.3 | -14.3 |
| 採算(収益) | -71.4 | -14.3 | -42.9 |
| 従業員数(含む臨時・パート) | 0.0 | 0.0 | 14.3 |
| 貴社の業況(総合判断) | -28.6 | -28.6 | -57.1 |



<業況判断DIの推移>

| | 4~6月 | 7~9月 | 10~12月 | H17.1~3月 | 4~6月見通し |
|----|-------|-------|--------|----------|---------|
| 売上 | -66.7 | 0.0 | 14.3 | 0.0 | -28.5 |
| 収益 | -55.6 | -22.2 | -28.5 | -14.3 | -42.9 |
| 総合 | -44.4 | -22.2 | -14.3 | -28.6 | -57.1 |

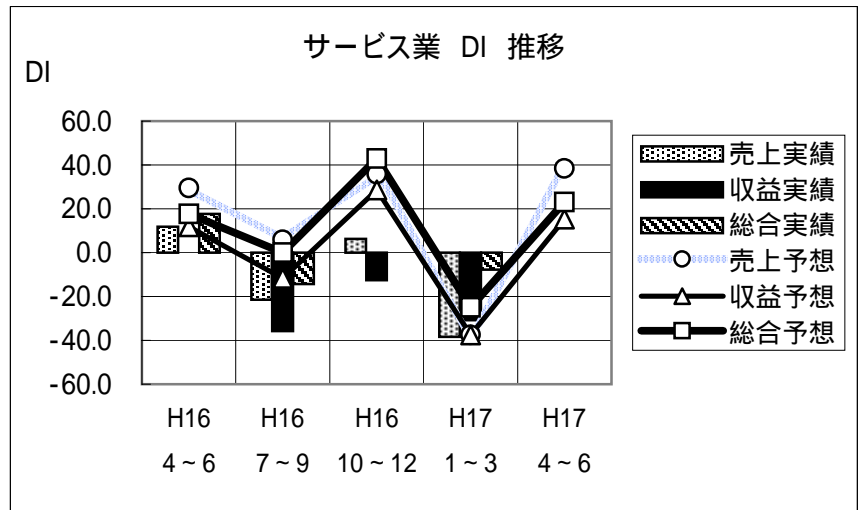
サービス業

売上DI値は 38.4、前期実績10～12月期（6.3）に比して44.7ポイントの下降。収益DI値は 30.8、前期実績10～12月期（12.5）に比して18.3ポイントの下降、総合判断DI値は 7.7、前期実績10～12月期（0.0）に比して7.7ポイントの下降と、いずれも悪化傾向であった。見通しとしては、いずれも改善傾向である。

サービス業

(DI 単位:%)

| | 前年同期比 平成16年1月～3月 に比べて | 前期比 平成16年10月～12月 に比べて | 来期見通し 平成17年4月～6月 の見通し |
|----------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 生産額・売上額 | -7.7 | -38.4 | 38.4 |
| 製品・商品在庫 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 資金繰り | -7.7 | -23.1 | 0.0 |
| 採算(収益) | -15.4 | -30.8 | 15.4 |
| 従業員数(含む臨時・パート) | -15.4 | -15.4 | 23.1 |
| 貴社の業況(総合判断) | -7.7 | -7.7 | 23.1 |



< 業況判断DIの推移 >

| | 4～6月 | 7～9月 | 10～12月 | H17.1～3月 | 4～6月見通し |
|----|------|-------|--------|----------|---------|
| 売上 | 11.8 | -21.4 | 6.3 | -38.4 | 38.4 |
| 収益 | 0.0 | -35.8 | -12.5 | -30.8 | 15.4 |
| 総合 | 17.6 | -14.3 | 0.0 | -7.7 | 23.1 |

【旅館】

地元の大企業およびその関連企業の好調に支えられた新年会・歓送迎会の利用は多いものの、一般のツアー客は「愛・地球博」の出控え現象で利用少なく、総体的な売上は前年売上を維持するのが精一杯であり、中には前年割れをしている所もある。

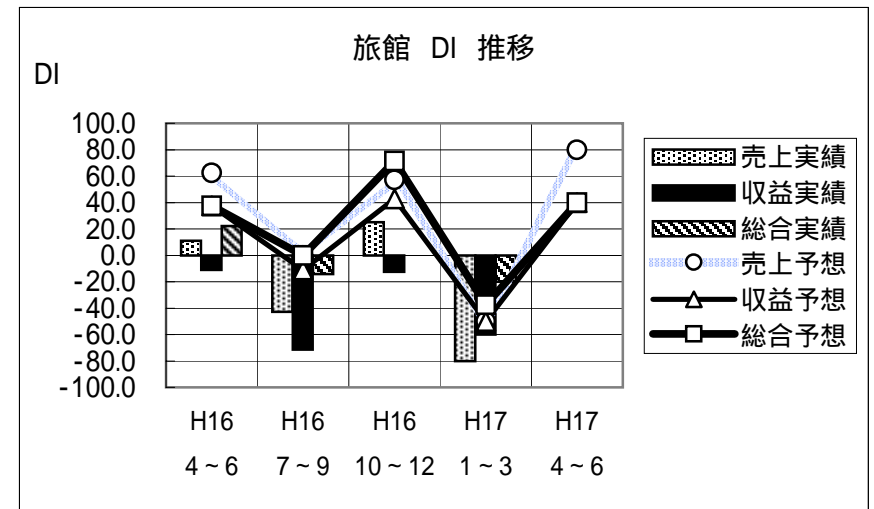
向こう3ヶ月の見通し

3月25日オープン「愛・地球博」は、2月下旬より予約が活発となり、3月に入り各テレビ・ラジオ・新聞等マスコミ関係が取り上げるにより一挙に予約が増加している。3月20日時点で前年4～6月の実績を上回る予約状況となっており、売上のかなり期待できる。(観光部会)

(旅館)

(DI 単位:%)

| | 前年同期比 平成16年1月～3月 に比べて | 前期比 平成16年10月～12月 に比べて | 来期見通し 平成17年4月～6月 の見通し |
|----------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 生産額・売上額 | 0.0 | -80.0 | 80.0 |
| 製品・商品在庫 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 資金繰り | 0.0 | -20.0 | 20.0 |
| 採算(収益) | -20.0 | -60.0 | 40.0 |
| 従業員数(含む臨時・パート) | 0.0 | 0.0 | 60.0 |
| 貴社の業況(総合判断) | 0.0 | -20.0 | 40.0 |



< 業況判断DIの推移 >

| | 4～6月 | 7～9月 | 10～12月 | H17.1～3月 | 4～6月見通し |
|----|-------|-------|--------|----------|---------|
| 売上 | 11.1 | -42.8 | 25.0 | -80.0 | 80.0 |
| 収益 | -11.1 | -71.4 | -12.5 | -60.0 | 40.0 |
| 総合 | 22.2 | -14.3 | 0.0 | -20.0 | 40.0 |

運輸通信業

売上DI値は 33.4、前期実績10～12月期（10.0）に比して43.4ポイントの下降。収益DI値は 44.5、前期実績10～12月期（10.0）に比して34.5ポイントの下降。総合判断DI値は 22.2、前期実績10～12月期（0.0）に比して22.2ポイントの下降と、いずれも悪化傾向であった。見通しとしては、売上・収益とも改善傾向であり、総合判断は悪化傾向である。

運輸通信業

(DI 単位:%)

| | 前年同期比 平成16年1月～3月 に比べて | 前期比 平成16年10月～12月 に比べて | 来期見通し 平成17年4月～6月 の見通し |
|----------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 生産額・売上額 | -11.1 | -33.4 | 22.2 |
| 製品・商品在庫 | 0.0 | -11.1 | 0.0 |
| 資金繰り | -11.1 | -11.1 | -11.1 |
| 採算(収益) | -33.4 | -44.5 | -22.2 |
| 従業員数(含む臨時・パート) | -11.1 | 0.0 | -11.1 |
| 貴社の業況(総合判断) | -11.1 | -22.2 | -11.1 |

[旅客・貨物輸送・水運]

海運関係：蒲郡港の原木入荷は前年より良いものの木材製品（製材・合板）が低調である。自動車輸出の実績はゼロである。一般的に荷動きは少ない。今後の見通し、例年上期の木材入荷は低調であり、自動車の動きもなく、多くの期待は持てない。

陸運関係：貨物量について、一般貨物については期末に向け微増、小口貨物については横バイ、また自動車関連部品に関しては増加傾向にある。特定地域における車両の代替、原油の高騰による軽油価格の上昇、また環境問題（NOX，PM法）に対応するため車両価格も上昇等、業界の環境は引き続き良くない。今後の見通し、ゴールデンウィークによる稼働日数の減少、貨物量、売上ともに期待できない。

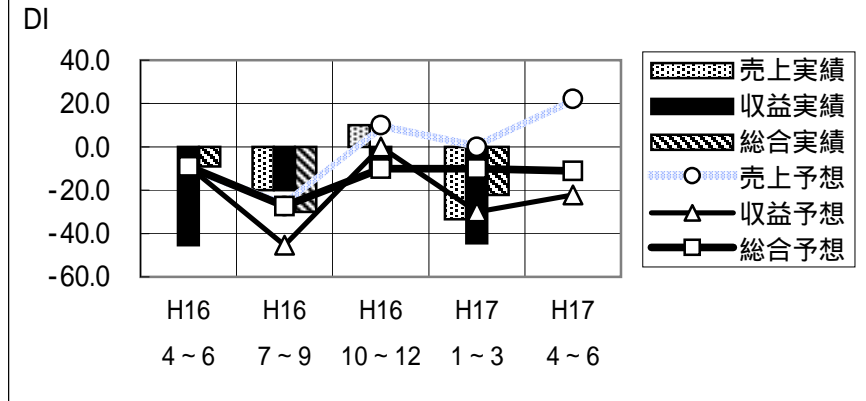
バス業界関係：中部国際空港開港により新規空港バス路線、見学ツアーを含む貸切バス共に好調な状況にある。今後の見通し、万博協会による駐車場シャトルバスの受注量が、見込みを大幅に下回り、万博による特需効果は、大幅に下方修正せざるを得ない見込みである。（運輸交通港湾部会）

(旅客・貨物輸送・水運)

(DI 単位:%)

| | 前年同期比 平成16年1月～3月 に比べて | 前期比 平成16年10月～12月 に比べて | 来期見通し 平成17年4月～6月 の見通し |
|----------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 生産額・売上額 | 16.7 | -16.7 | 33.3 |
| 製品・商品在庫 | 0.0 | -16.7 | 0.0 |
| 資金繰り | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 採算(収益) | -16.7 | -33.3 | 0.0 |
| 従業員数(含む臨時・パート) | -16.6 | 16.6 | 0.0 |
| 貴社の業況(総合判断) | -16.6 | -16.7 | 0.0 |

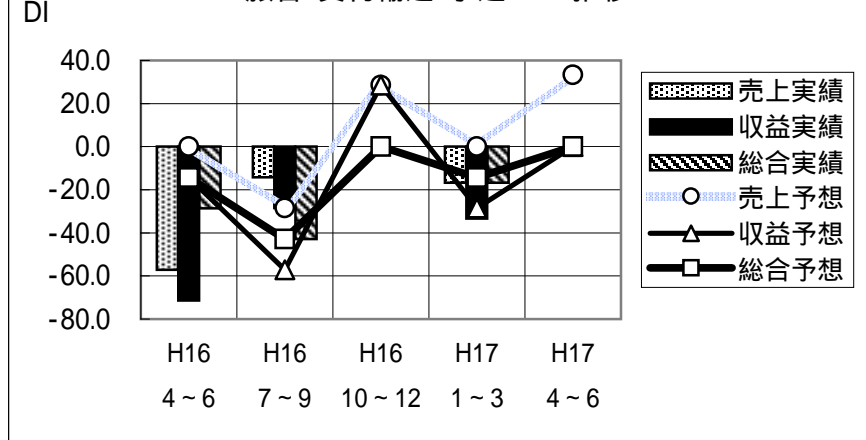
運輸通信業 DI 推移



<業況判断DIの推移>

| | 4～6月 | 7～9月 | 10～12月 | H17.1～3月 | 4～6月見通し |
|----|-------|-------|--------|----------|---------|
| 売上 | 0.0 | -20.0 | 10.0 | -33.4 | 22.2 |
| 収益 | -45.4 | -20.0 | -10.0 | -44.5 | -22.2 |
| 総合 | -9.1 | -30.0 | 0.0 | -22.2 | -11.1 |

旅客・貨物輸送・水運 DI 推移

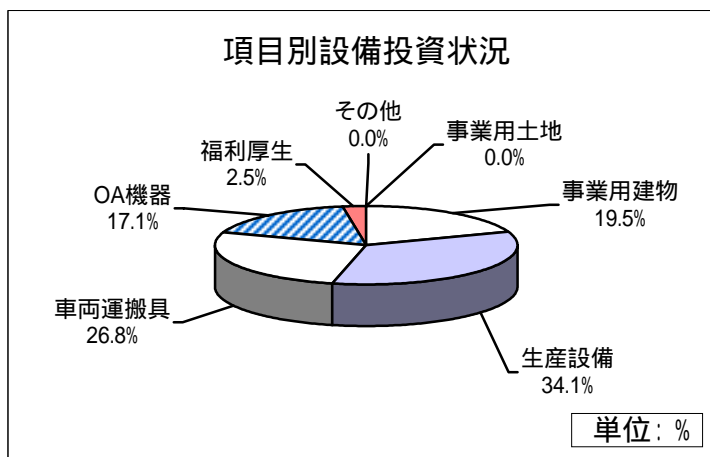
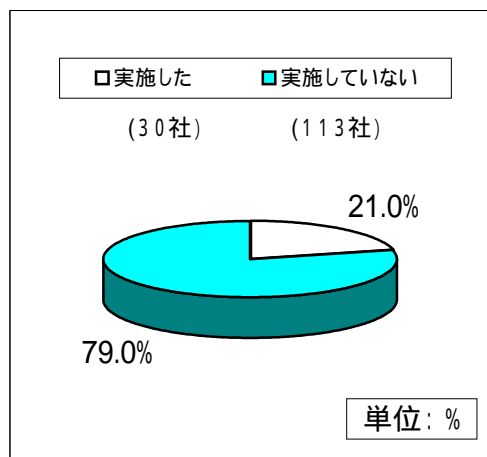


<業況判断DIの推移>

| | 4～6月 | 7～9月 | 10～12月 | H17.1～3月 | 4～6月見通し |
|----|-------|-------|--------|----------|---------|
| 売上 | -57.1 | -14.2 | 0.0 | -16.7 | 33.3 |
| 収益 | -71.4 | -28.5 | 0.0 | -33.3 | 0.0 |
| 総合 | -28.6 | -42.9 | 0.0 | -16.7 | 0.0 |

7. 設備投資動向

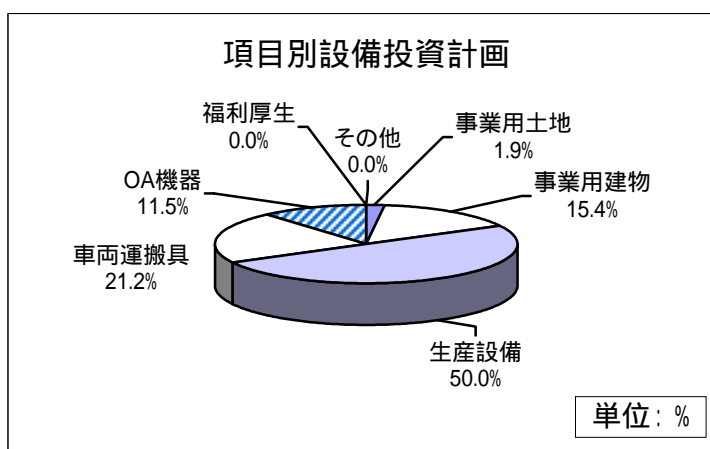
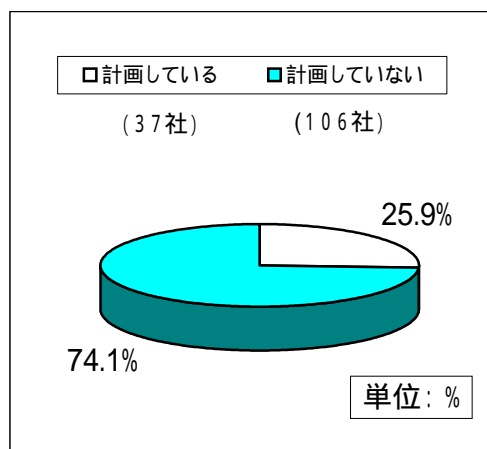
< 今期(H17.4~6月)設備投資実施状況 全業種 >



・ 1～3月期に設備投資を実施した企業は、30社(21.0%)あり、項目別には41件ある。そのうち生産設備(34.1%)、車両運搬具(26.8%)、事業用建物(19.5%)に投資された。

・ 4～6月期に設備投資計画のある企業は、37社(25.9%)あり、項目別には52件ある。そのうち、生産設備(50.0%)、車両運搬具(21.2%)、事業用建物(15.4%)の投資計画である。

< 来期(H17.1~3月)設備計画 全業種 >



設備投資・計画内容(全業種)

| | 今期 | 来期見通し |
|-------|----|-------|
| 事業用土地 | 0 | 1 |
| 事業用建物 | 8 | 8 |
| 生産設備 | 14 | 26 |
| 車両運搬具 | 11 | 11 |
| OA機器 | 7 | 6 |
| 福利厚生 | 1 | 0 |
| その他 | 0 | 0 |
| 計 | 41 | 52 |

(単位:件)

今期(H17.1~3月)、来期(H17.4~6月)設備投資実施、計画動向

| | 全業種 | 製造業 | 建設業 | 卸売業 | 小売業 | サ-ビス業 | 運輸通信業 |
|-----------------|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-------|
| 1. 今期(H17.1~3月) | 30 | 19 | 0 | 2 | 3 | 3 | 3 |
| 2. 来期(H17.4~6月) | 37 | 24 | 1 | 3 | 3 | 2 | 4 |

(単位:事業所)

8. 経営上の問題点

項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 143 社)

| | 項目 | 件数 % |
|---|---------------|-------------|
| 1 | 売上の停滞・減少 | 92 64.3% |
| 2 | 利幅の縮小 | 78 54.5% |
| 3 | 競争激化 | 66 46.2% |
| 4 | 原材料(燃料)高 | 35 24.5% |
| 5 | 販売納入先からの値下げ要請 | 23 16.1% |

(複数回答の為、総数と一致しません。)

・項目別経営上の問題点は、上位4位までは前回と比べ順位は同じである。

・業種別経営上の問題点は、全業種とも1位に『売上の停滞・減少』、2位に『利幅の縮小』をあげている。

業種別経営上の問題点

(上位3項目)

| | 1 位 | 2 位 | 3 位 |
|-----------------|------------------------|----------------------------|------------------------|
| 製造業 57 社 | 利幅の縮小 35 社 61.4% | 売上の停滞・減少 30 社 52.6% | 原材料(燃料)高 23 社 40.4% |
| 建設業 11 社 | 利幅の縮小 8 社 72.7% | 売上の停滞・減少 7 社 63.6% | 競争激化 6 社 54.5% |
| 卸売業 24 社 | 売上の停滞・減少 21 社 87.5% | 競争激化 11 社 45.8% | 利幅の縮小 10 社 41.7% |
| 小売業 29 社 | 競争激化 20 社 69.0% | 売上の停滞・減少 18 社 62.1% | 利幅の縮小 14 社 48.3% |
| サ - ビス業 13 社 | 売上の停滞・減少 11 社 84.6% | 消費者ニーズの変化の対応 11 社 84.6% | 競争激化 6 社 46.2% |
| 運輸通信業 9 社 | 売上の停滞・減少 5 社 55.6% | 利幅の縮小 5 社 55.6% | 原材料(燃料)高 4 社 44.4% |

(複数回答の為、総数と一致しません。)

付帯調査(地域デ - タ)

| 番号 | 調査項目 | 単位 | H17.4報告 | 基準日 | H17.1報告 | 基準日 | H16.10報告 | 基準日 | 参照資料 |
|----|-------------|----|---------|---------------|---------|---------------|----------|--------------|-------------------|
| 1 | 人口 | 人 | 81,739 | H17.4.1 | 81,805 | H17.1.1 | 81,835 | H16.10.1 | 市民課住民基本台帳 |
| 2 | 世帯数 | 世帯 | 27,489 | H17.4.1 | 27,390 | H17.1.1 | 27,297 | H16.10.1 | " |
| 3 | 15才～65才生産人口 | 人 | 54,090 | H17.4.1 | 54,234 | H17.1.1 | 54,328 | H16.10.1 | 市民課 |
| 4 | 外国人登録者数 | 人 | 1,680 | H17.3.31 | 1,602 | H16.12.31 | 1,507 | H16.9.30 | " |
| 5 | 建築確認届出件数 | 件 | 115 | H16.12月～17.2月 | 133 | H16.9月～16.11月 | 132 | H16.6月～16.8月 | 建築住宅課受付件数(別紙参照) |
| 6 | 全国完全失業率 | % | 4.5 | H17.1月 | 4.6 | H16.11月 | 4.8 | H16.8月 | 総務省(別紙参照) |
| | 愛知県完全失業率 | % | 3.2 | H16.10～12月 | 3.5 | H16.7～9月 | 3.7 | H16.4～6月 | 総務省(愛知県産業労働総務課より) |
| 7 | 全国有効求人倍率 | 倍 | 0.91 | H17.1月 | 0.91 | H16.11月 | 0.84 | H16.8月 | 総務省(別紙参照) |
| | 蒲郡管内有効求人倍率 | 倍 | 1.15 | H17.2月 | 1.00 | H16.11月 | 0.86 | H16.8月 | 蒲郡公共職業安定所(業務月報より) |

全国データ

| | 労働 | | | 設備投資・住宅投資 | | GDP・景気動向指数 | | 消費 | | | |
|---------|----------------|-----------------|------------------|--------------------|----------------|-----------------|-------------------|---------------------|--------------------------|-----|-------|
| | 完全失業者数 (万人) | 完全失業率 (季調・%) | 有効求人倍率 (季調・倍) | 機械受注 (船舶電力除)前年比 | 新設住宅着工 (戸数) | 名目国内総生産 (兆円) | 実質成長率 前期比(%)年率 | 消費支出 (全国勤労者)前年比% | 新車新規登録届出数 (乗用車 季調・万台) | | |
| 1996年度 | 225 | 3.3 | 0.72 | 11.4 | 1,630,378 | 515 | 3.4 | 1.0 | 707.7 | | |
| 1997年度 | 236 | 3.5 | 0.69 | 3.9 | 1,341,347 | 520 | 0.2 | 0.2 | 672.5 | | |
| 1998年度 | 294 | 4.3 | 0.5 | 18.6 | 1,179,536 | 514 | 0.8 | 0.8 | 587.9 | | |
| 1999年度 | 320 | 4.7 | 0.49 | 0.6 | 1,226,207 | 508 | 0.9 | 1.8 | 586.1 | | |
| 2000年度 | 平均 320 | 4.7 | 0.62 | 16.6 | 1,213,157 | 513 | 3.0 | 1.2 | 596.3 | | |
| 2001年度 | 348 | 5.2 | 0.56 | 12.6 | 1,173,170 | 501.0 | 1.2 | 3.4 | 590.6 | | |
| 2002年度 | 359 | 5.4 | 0.54 | 3.7 | 1,145,553 | 497.2 | 0.8 | 0.6 | 586.8 | | |
| 2003年度 | 350 | 5.3 | 0.64 | 8.2 | 1,173,649 | 501.3 | 1.9 | 0.2 | 589.1 | | |
| 2003年1月 | 357 | 5.5 | 0.60 | 18.8 | 82,770 | 494.0 | 0.1 | 2.0 | 38.0 | | |
| 2月 | 349 | 5.2 | 0.61 | 1.4 | 83,399 | | | 1.3 | 52.6 | | |
| 3月 | 384 | 5.4 | 0.60 | 11.7 | 87,297 | | | 2.6 | 82.3 | | |
| 4月 | 385 | 5.4 | 0.60 | 4.3 | 100,276 | | | 1.2 | 37.9 | | |
| 5月 | 375 | 5.4 | 0.61 | 12.2 | 97,970 | *497.6 | *4.3 | 1.1 | 42.0 | | |
| 6月 | 361 | 5.3 | 0.61 | 12.1 | 115,081 | *498.4 | *2.2 | 1.1 | 49.7 | | |
| 7月 | 342 | 5.3 | 0.62 | 6.1 | 98,718 | | | 4.2 | 52.5 | | |
| 8月 | 333 | 5.1 | 0.63 | 12.2 | 92,406 | | | 0.6 | 35.5 | | |
| 9月 | 346 | 5.1 | 0.66 | 0.6 | 98,369 | | | 2.0 | 57.2 | | |
| 10月 | 343 | 5.2 | 0.70 | 23.1 | 104,572 | *501.2 | *7.6 | 0.9 | 46.1 | | |
| 11月 | 330 | 5.1 | 0.73 | 13.4 | 98,399 | | | 0.1 | 45.8 | | |
| 12月 | 300 | 4.9 | 0.77 | 18.4 | 100,826 | | | 0.0 | 43.6 | | |
| 2004年1月 | 323 | 5.0 | 0.76 | 3.0 | 88,797 | | | *507.5 | *6.4 | 1.0 | 40.4 |
| 2月 | 330 | 5.0 | 0.76 | 9.3 | 84,950 | 5.2 | 53.5 | | | | |
| 3月 | 333 | 4.7 | 0.76 | 0.2 | 93,285 | 0.1 | 84.9 | | | | |
| 4月 | 335 | 4.7 | 0.78 | 16.9 | 96,178 | 4.0 | 37.7 | | | | |
| 5月 | 319 | 4.6 | 0.79 | 8.8 | 98,889 | *504.2 | *1.3 | 4.3 | 39.6 | | |
| 6月 | 309 | 4.6 | 0.83 | 10.4 | 106,582 | *503.3 | *0.2 | 2.6 | 48.2 | | |
| 7月 | 318 | 4.9 | 0.84 | 0.3 | 106,462 | | | 0.9 | 52.3 | | |
| 8月 | 314 | 4.8 | 0.84 | 5.4 | 102,070 | | | 0.4 | 36.3 | | |
| 9月 | 309 | 4.6 | 0.86 | 5.0 | 108,281 | | | 0.9 | 56.3 | | |
| 10月 | 311 | 4.6 | 0.89 | 9.9 | 106,145 | *504.5 | *0.5 | 1.4 | 42.6 | | |
| 11月 | 290 | 4.6 | 0.91 | 15.1 | 98,561 | | | 0.4 | 48.6 | | |
| 12月 | 270 | 4.5 | 0.90 | 0.9 | 98,849 | | | 3.2 | 45.0 | | |
| 2005年1月 | 296 | 4.5 | 0.91 | 4.8 | 94,944 | | | - | - | 0.5 | 39.2 |
| 2月 | - | - | - | - | 85,288 | - | - | | | - | 52.9 |
| 3月 | - | - | - | - | - | - | - | | | - | *83.4 |

(総務省)

(内閣府)

(国土交通省)

*は速報値(内閣府)

(総務省)(日本自動車販売協会連合会)